



2016年11月9日放送

印象に残る症例①

まつもと脳神経・内科クリニック 院長 松本 正人

私は、福島で開業をしております、まつもと脳神経・内科クリニックの松本と申します。もともと病院の勤務医でしたが、4年前に開業をし、子供から高齢者まで、幅広い年代の患者さんを診ております。専門は脳神経外科で、専門医としては、脳神経外科はもちろんですが、脳卒中専門医、認知症専門医でもあります。しかし、対象とする疾患は脳外科関連あるいは認知症関連疾患に限らず、内科、整形外科、一部心療内科的な疾患も診ております。頭痛、もの忘れ、めまい外来も行っており、少数の患者さんですが、在宅医療も行っております。勤務医時代には西洋薬を主に使っておりましたが、開業してから西洋薬ではなかなか改善しない患者さんを診る機会が多くなり、漢方薬に頼ることが多くなりました。

私は、漢方の専門医でもありませんし、特別詳しいわけでもなく、ツムラ医療用漢方製剤の冊子やツムラのMRの方が持ってきていただけるパンフレットや説明書などを参考に薬剤を選んで使っております。従いまして、専門の先生方には満足いくようなお話をすることはできませんのでその点はお許しいただければと思います。

まず、産前産後の神経症、月経不順、血の道症に用いる女神散について経験した症例を提示したいと思います。

症例1

58歳の女性で、半年前から頭がすっきりしない、また、めまいとふらつきが出現、数か所のクリニックを受診しましたが、改善しないとのことで来院されました。既往歴には特

記すべきことはありませんでした。身体的所見では、肩から後頸部の筋肉に軽度の圧痛を認める以外に異常所見はなく、頭部 MRI、MRA 検査でも異常所見はありませんでした。

頭がすっきりしない、めまい、ふらつき感は更年期障害ではないかと考え、また、他のクリニックで様々な西洋薬が投与されていたにも関わらず、症状に改善がみられないこと、体格は中肉、中背で体力は中等度以上と考えられたため、女神散を選択し、1 日量、7.5g を投与したところ、1 ヶ月後には頭がすっきりしない感じ、めまい、ふらつき感が改善しておりました。ご本人は、これまで、西洋薬でめまいに対する多くの薬剤を服用してきましたが改善がみられなかったのに、女神散で初めて改善したとのことで大変喜ばれました。この時、女神散は更年期障害に対して効果があると強く感じ、同じような患者さんが来院したら使用してみようと思いました。そうしているうちに次の患者さんが来院されました。

症例 2

60 歳の女性で、1 ヶ月前から、急に体が熱くなる、むかむかする、気分がすぐれない、肩が凝るなどの症状が出現、多彩な症状、いってみれば不定愁訴を主訴に来院されました。既往歴は、高血圧、脂質異常症、虫垂炎でした。この症例でも症例 1 と同様に身体所見で肩から後頸部の筋肉に軽度の圧痛を認める以外に異常所見はありませんでした。

頸肩腕症候群、不安神経症、軽度のうつ状態にあると考え、ノイロトロピン、メコバラミン、エチゾラム、パロキセチン塩酸塩を投与し、様子を見ていただくことにしました。3 週間後に再度来院された際には、むかむかする、気分がすぐれない、肩こりは多少改善したものの急に体が熱くなる、のぼせ症状は改善していないとのことでした。この患者さんは、症例 1 と同様に更年期障害に関連した症状と考え、女神散を 1 日量、7.5g で 3 週間投与しました。3 週間後来院したところ急に体が熱くなる、のぼせ症状は改善しておりました。その後、現在まで女神散を服用していますが、体が熱くなる、のぼせ症状はみられていません。今回の症例は、60 歳ですから、更年期を若干過ぎていてもよいのかもしれないませんが、この年齢でも効果がみられたことは更年期を過ぎた患者さんにも効果が認められるのではと思いました。

症例 3

71 歳、女性で 1 ヶ月前から全身がふるえる感じ、不安感、頭が熱くなるなどの不定愁訴を訴え来院されました。既往歴では 2 型糖尿病、脂質異常症、高血圧がありますが、いずれもコントロールは良好でした。身体的所見で肩の筋肉に軽度の緊張を認める以外に異常所見はなく、頭部 MRI、MRA 検査でも異常所見はありませんでした。

女神散を 1 日量、7.5g で投与しました。1 ヶ月後に来院された時には、全身がふるえる感じ、不安感、頭が熱くなる、のぼせ症状が改善しておりました。この症例では 71 歳という比較的高齢でも更年期障害のような症状が改善したことが印象に残りました。

このような症例を縦続きに 3 例経験し、女神散は更年期障害のような症状も含めた、いわゆる不定愁訴に対してこれまで西洋薬ではみられない効果があると思ひ、それ以降、連続 44 例に対して女神散を投与してみました。年齢は 42 歳から 88 歳まででした。結果ですが、44 例中の 27 例 (61%) に改善を認めました。どのような症状に有効だったかを調べますと、めまい、ふらつきを訴えた 12 例中 10 例で改善をみました。それ以外に効果が認められた症状をあげますと、顔面を含めた体が熱くなる、のぼせ症状、汗をかく、動悸、食欲不振、頭がボーっとする、四肢のしびれ、手のこわばり、心窩部違和感、などでした。いずれも投与 1 ヶ月の時点で改善を認めておりました。一方、効果が認められなかった症状としては、12 例中 2 例ではめまい、ふらつき、動悸、頭がボーっとする症状に効果がなく、耳鳴りについては残念ながら 3 例全例で効果はみられませんでした。改善した 27 例では、全例で服用 1 ヶ月以内に改善しており、服用 1 ヶ月以上で改善した例はありませんでした。したがって、女神散の効果については、せいぜい 2 ヶ月間の服用で、その時点で改善がなければ、効果はないと判断し、別の薬剤に変更すべきではないかと考えております。なお、全例で有害事象は認められませんでした。

また、どの年齢層に効果がみられるのかについて調べてみました。女神散はもともと更年期障害に使用する薬剤なので、当初は、更年期の患者さんに効果が最もみられるのではと考えておりました。調べた結果ですが、更年期に当てはまる 51 歳から 60 歳では 7 例中 6 例に改善をみましたが、更年期を過ぎた 71 歳から 80 歳でも 9 例中 8 例に改善を認められたことから、更年期に限らず、幅広い年代で有効ではないかと考えられます。めまい、ふらつき感が高齢者が訴える症状の中で比較的多い症状のひとつです。女神散は重大な副作用もないことから高齢者にも比較的安全に投与ができるのではと考えられます。

漢方の専門医である愛誠病院漢方外来統括医師でいらっしゃいます新見正則先生の著書『フローチャート漢方薬治療』の中で更年期もどきに対してまず選択する漢方薬は加味逍遙散で、効果がないときには女神散とあります。ここで加味逍遙散について、少し触れますと、加味逍遙散の使用目標は、比較的虚弱で疲労しやすく、めまい、のぼせはそれほど強くなく、肩こり、不眠、精神不安、イライラなど、来るたびに訴えが違ふというような様々不定愁訴の例に用いますが、それに対して、女神散の使用目標は、体力が中等度あるいはそれ以上で、加味逍遙散とは異なり、めまい、のぼせが強く、動悸、頭痛があり、いつも同じことを訴える例に用いとされています。

今回私が経験した患者さんの症状は、めまい、のぼせが強く、いつも同じことを訴える例で、更年期障害あるいは更年期障害もどきでして、そのような患者さんに女神散は有効ではないかと考えています。新見先生によりますと更年期障害もどきとは、閉経とは関係なく、20~80 才くらいまでの患者さんに出現する症状で、女神散は、これらの年齢層に有効だそうですが、私の投与例は最も若い人で 42 才でしたので、それ以下の年齢の方にも有効かもしれません。今後、更年期障害もどきの症状でなかなか他剤では改善がみられない

若い年齢層に対しても使用してみようと思っています。今回の私の症例では81才以上の症例は少ないのですが、有効例は6例中1例と他の年齢層と比較して、有効率が低く、新見先生が投与年齢は20～80才くらいまでとおっしゃるように、80才くらいまでが適応なのかもしれません。

まとめ

めまい、ふらつき、体が熱くなる、のぼせ症状、汗をかく、動悸、食欲不振、頭がボーっとするなどの、更年期障害あるいは類似症状を来し、他剤で効果が認められない症例に対して女神散の投与を試みてもよいのではないかと思います。